

平成25年度 特別推進研究 審査の所見

研究課題名	物理的摂動を用いる巨視スケールにおよぶ構造異方性の制御と特異物性発現
研究代表者	相田 卓三
審査の所見	<p>本研究は、物理的摂動を用いて巨視スケールに及ぶ構造制御を実現し、それに基づく新物性の発現を目指すものである。</p> <p>従来、人工的な分子の組織化においては、ナノレベルにおける組織化をマクロなスケールまで行うことは困難とされてきた。</p> <p>応募者は、磁場や静電的な摂動を活用するという極めて独創的な手法で、ナノからマクロに及ぶ組織化の方法論を確立、さらに全く新規な材料が構成可能であることを示しており、今後も優れた研究成果が期待できる。</p> <p>以上により、特別推進研究に相応しい研究として採択すべき課題であると判断した。</p>